

4. COVID-19と高血圧症・腎疾患

透析室統括医

片桐 大輔

国立研究開発法人国立国際医療研究センター病院腎臓内科

▼ Summary

COVID-19は、直接細胞障害やサイトカイン過剰産生、血栓症などを介して、肺以外にも多臓器にわたる障害を引き起こすことが知られている。高血圧については、RAS系阻害薬が患者予後を増悪させるという情報が当初あったものの、現時点で投与を中止すべきであるというエビデンスはない。COVID-19においては、腎臓も主要なターゲット臓器として認識されており、急性腎障害はもちろんのこと、慢性腎臓病との関連について注目が集まっている。筆者らは非侵襲的な尿検査であるL-FABPと β 2ミクログロブリンを用いることで、軽症例と重症化例を精度高くリスク層別化できることを検討した。

▼ Key Words

COVID-19, 高血圧, 腎障害, 尿バイオマーカー

● はじめに (COVID-19の現状)

2019年12月、中華人民共和国の湖北省で新型の肺炎患者の集団発生がニュースになった。この新型コロナウイルス (SARS-CoV-2) による感染症 (corona virus disease 2019 ; COVID-19) は短期間のうちに世界中に拡散し、2020年3月11日には世界保健機関 (World Health Organization ; WHO) がパンデミック状態にあることを宣言した。この2年はまさしくコロナに世界が振り回された日々として記録され、今も人々の生活とコロナは切り離せない状況となっている。原稿執筆時は、オミクロン株が欧米で猛威をふるい、日本でもじわじわと感染者が増加しつつあった。重症度は依然として不明な状況である。当院にも患者が多く入院されているが、現時点では、いずれも軽症である。このまま日本が

第6波に向かっていくのか、ワクチンの3回目接種が国民にどの程度行き渡るのかが問題となっている。SARS-CoV-2は3日程度、環境表面で安定と報告されている。感染経路としては飛沫感染が主体と考えられているが、飛沫によって汚染された環境表面からの接触感染の可能性、密閉された空間において短距離でのエアロゾル感染なども示唆されている。そのため、医療機関に限らず、感染予防が非常に難しい感染症といえる。

COVID-19の初期症状はインフルエンザに似ており、発熱、咳嗽、倦怠感、呼吸困難を起こす。入院までの中央値は7日間である。一部に下痢や味覚障害、嗅覚障害が起こることもあるが、必発ではない。本邦のCOVID-19患者レジストリであるCOVIREGI-JPのデータでは、入院患者の6割において酸素投与が不要であったのに対して、3割で酸素投与が必要であり、9%の患